

月刊島民

中之島

Vol.96 2016 7/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン



中之島インバウンド



ナカノシマ大学

「大阪ミステリー夜話」

有栖川有栖

久坂部羊

申し込み受付中!

みなさん、大阪で何をしているんですか？

中之島で出会ったら5つの旅。

日本中を驚かせている「インバウンド」の波は、中之島周辺にも。すると気になるのは、みなさん何をしに来ているの？という点。世界中を旅した経験を持つ「游牧ライター」こと近藤雄生さんと一緒に、その様子を少しだけ覗きに行ってみた。

文 近藤雄生 (フラインクショウライター)



サイクリングツアー中 @中之島公園

ホセ(中央)とその友人たち。みなボストン出身。2週間の旅の中盤あたり。「関西は人が親切だなんて感じるよ。ぼくは器が好きで、日本の器を今回買ったんだ。とても素敵だよ」(ホセ)



from Taiwan 台湾

日本大好き3姉妹 @中之島バラ園

右がワーホリ来日予定の林静(リンジン)さん。関西は初めてで5日間の旅。「日本でまだ芸能人に会えてなくて残念(笑)。みなさんもぜひ台湾に来てくださいね!」



外国人は中之島を 目指してやって来ている!?

朝から日差しが強い5月某日、京都から京阪電車に乗って中之島にやってきた。外国人旅行者に「なぜここに?」と聞いて回るためである。いったいどんな人たちがこの界隈を訪れているのだろうか?

なにわ橋駅を出発してまずはそばのバラ園へ。年配の日本人が多い中、アジア系の4人家族を発見したので話しかけると、シンガポールの人たちだった。「バラを見るため中之島に来たんです」。たまたま通りがかったのではないところに中之島の存在感を見た気がしたが、間もなく心斎橋に家電を見に行くとのことで、すでに彼らは「離島」体勢。でもお父さんの「大阪はきれいですね」という言葉には、中之島の印象も入っていたに違いない。

さて、と少し歩き回ると、若い女性3人組がランランな様子で通りがかった。迷わず「ニーハオ」と声をかけると、台湾から来た3姉妹だった。彼女たちもバラ園を見るためにわざわざ中之島に来たとのこと。「これで知ってます」と大阪観光局(P8)のサイトをスマホの画面で見せてくれた。

と、そのうちに、末っ子らしきリンジンさんが「ワタシハダイカク4ネンセイデス」と日本語で言うではないか聞くと「キムタクが好き!」と、古典的日本人ファンであることが判明し、さらに「秋からワーホリで日本に来ます!」とも。台湾に行った時、その親日的雰囲気感激したが、彼女もさらに日本を好きになってくれたらと願いつつ、とても嬉しい気持ちになったのである。

その勢いで次に声をかけたのは、サイクリングツアー中のアメリカ人のホセである。彼は初関西だということに中之島を知っているという。「ここは島で、ビジネス街なんだろう?」。おお、ホントに知ってる! 興奮すると、「いや、さつきガイドが教えてくれてね、ははは」と、なるほどなご回答(笑)。でもこちらをしつかり喜ばせてくれるあたりがやはりアメリカ人なのである。「またね!」。スーツが似合いそうな知的系男子ホセは、ビジネス島民の一人のように颯爽と東に走り去った。

この3組から大胆に断言しよう。外国人はみな、ちゃんと中之島を目指して橋を渡って来ているのだ!

定番観光地、 大阪城での反応は…。

場所を移して次は大阪城へ。天守閣に向かって歩いていくと、桜門辺りに



from
Netherlands
オランダ

キャビンアテンダント2人組
@大阪城

スーザン(左)とカーリーン。アムステルダムから関空へのフライトを終え、担当の復路便まで4日間の休暇中。「私はマンガやアニメが大好きで、日本の作品にもすごく影響を受けてるの! でも前はスーパーウーマンになりたいって思ってたけどね(笑)」(カーリーン)



from
Switzerland
スイス

イケメン3人組 @大阪城

右がジョゼッペ。みな第一言語はイタリア語。17日間の旅の中ほどで、東京、京都、広島、福岡を経て、大阪へ。「日本に来てからオレたち、よく兄弟かかって聞かれるんだ。似て見えるらしいよ。そんなこと思ったことなかったのに(笑)」



from
Singapore
シンガポール

家族旅行中の兄妹 @中之島バラ園

両親と共に旅行中。2人とも大学生。関西のみの7日間の旅でこの日は5日目。「ドラッグストアで化粧品などをたくさん買いました!」[大阪はきれいですね!]



お疲れな様子のイケメン3人を発見した。近づくくと、笑顔で「おお、座りなよ」と言う彼らは、スイスのイタリア語圏の人たちだった。「いま大阪城を見てきたけど、ちょっと疲れちゃってね。最近建て直されたレプリカ(?)って聞いてちよつとがっかりで…。いやいや、暑いからかな?」。いや、その気持ちわかります(笑)。

一方、お約束の問いには「ナカノシマ? 悪いけど知らないなあ」とおかしそうに笑う。ユルいやりとりが、安宿で旅行者同士で飲み語っている時のようであり、どんな話が弾んでいた。日本の若者の生き方、民主主義のあり方…。好奇心旺盛なタンクトップ姿のジョゼッペは言った。「ぼくらにとってアジアは本当に神秘的な世界なんだよ」。気づくと1時間近く話していた。「またどこかで会えたら!」。いつか本当に再会できそうな気になりながら、彼らを見送ったのであった。

そしていよいよ天守閣へ。にぎわう「展望エリアで2人組の西洋人女性を見たとき、ピンときた。思い切って「あ…。」と話しかけると「え、何、何?」と満面の笑顔。「外国人に話を聞いているの? 私たちオオサカ人よ。あははは〜」というギャグまでつけてくれるのを聞いて、話しかけてよかった! ほぼも俄然テンションが上がった。聞くとか彼女たちはオランダ人のC A

で、帰りのフライトを待つ東の間の休暇中とのことだった。「コスプレの人が見たいの!」と相談を受けたり、「昨日タコのスシを食べたら噛み切れなくなる」と大笑い。一方、中之島の話になると律儀にガイドブックで調べてくれて「ええと、ここね…。でも今回は行かないわ、ごめん!」とさっぱり言うってくれるあたりがまた気持ちがいい。「今度はオランダに来て。案内してあげるから。マジで行きます!」

天守閣から中之島を眺めながら、この界限で今日話した5組の旅行者たちを思い返す。国籍はみなバラバラで、背景もそれぞれ、会話もいろいろ。きつとこのエリアには本当にさまざまな外国人がやってきていて、各々が違った物語と目的を持っているのだ。そんな彼らと出会い、話すと、自分も旅気分を味わえる。

一方、彼ら旅行者たちにとっても、現地の人間と話すのは貴重な日本体験であり、嬉しいだろうことを今日確信した。「ハロー!」だけでも悪くない。これは話しかけるしかないのである。すると島ライフは、旅行者にとってもぼくらにとってもきつとますます楽しくなる!

こんどう・ゆうき
1976年東京生まれ。大学院修了後、結婚直後に妻とともに日本を立ち、世界各地で取材執筆活動をしながら、5年半の海外「游牧」生活を送る。その紀行文「游牧夫婦」シリーズ(ミヤマ社)ほか旅に関する執筆多数。

取材文／江口由夏(本誌)

中之島にやって来た外国人たちはどんなものを買っているのだろうか？
日本人とはちょっと違う目線で、街を楽しんでいるようだ。
「これ、外国人にウケてます」。



やっぱり「米」に興味津々



【五感 北浜本館】の米粉を使ったお菓子

米粉や葛粉といった和素材をうまく生かした洋菓子は外国人の五感も刺激するようで、個別包装の小さな焼き菓子を少しずつ、あれもこれも買っていく。「周辺にホテルが多く、宿泊中の外国人の方がよくいらっしゃいます。『ホテルでおすすめしてもらった』と、サロンにモーニングを食べに来られたり。アジア圏の方が7割ほどですね」と、副支配人の加藤貴和子さん。同店の入口では、英語圏に住んでいたコンシェルジュが出迎えてくれる頼もしさ。

特に受けているのは抹茶と米粉を使ったバームクーヘン、それもホール(1,080円)。お米の最中クッキー「穂の一」(102円)は可愛らしい形も人気。☎06-4706-5160 9:30 AM~8:00PM(日曜・祝日は~7:00PM) 不定休



【公会堂SHOP】の大阪みやげ

店長の奥井礼奈さんが挙げたのは、国旗をプリントした折り紙に大阪産素材を使った鉛玉など。「建築物好きが多いのか、大阪城やレトロ建築モチーフも人気。日本語書籍も、建築物の写真が魅力的なら買っていかれます」。強い味方は「指さしMAP」。Yes/Noを始め「～が欲しいです」「～へはどう行けばいいですか」など、接客上で想定される会話が日本語と英語でシートに記され、お客さんは指さして意図を伝える。安心して買い物をしてもらうための知恵だ。

折り鶴用の折り紙(540円)や、ゆずやもの鉛(各572円)、嬉しいことに月刊島民絵ハガキ(180円)も建築物や武将のイラストの受けがいいそう。季節限定のグッズもセレクトしている。☎06-6205-3770 10:00AM~6:00PM 第4火曜休



中之島らしいセレクトとサイズ感が◎



ネットで探してみた!

外国人 中之島 人気



文/古月幸江(チャイナステージ株式会社 代表)
<http://www.china-stg.com/>

スマホの普及により、旅行しながらSNS発信なんて当たり前、同時生中継だってありえる時代。だから、ブログには、ほとんどタイムラグなしでたくさんの旅行記が書かれている。そこで、「中之島」というキーワードで英語、中国語、韓国語で検索してみた。英語はあまりヒットせず。しかし、中国語、韓国語はけっこう出てくる。しかもディープな話題も。

人気は、やはり「光のルネサンス」。イルミネーションが美しく、3Dマッピングは迫力満点! 冬に大阪へ旅行するならぜひ見たいイベントと紹介されていた。

「屋台で買った料理もおいしかった」と評判がいい。地元民の私が言うのもなんだが、いつも見ている中央公会堂と図書館がこの時ばかりは思いっきりおしゃれしましたと言わんばかりの美しさ。昔の建築物と最新技術のコラボレーションに感動するのは海外の人も同じらしい。

次に、意外や意外、中之島バラ園。知っている人が多いのには驚いた。「見たこともない種類のバラがいっぱいでリフレッシュできた」「時期が外れたので見られず、次回は絶対バラの時期に来る」などなど。きれいなバラの写真と共に紹介されているので、バラ園の評判はまさに現代のSNSの力なりということか。

そのSNSにおける、アジア人の特徴。旅行で訪れた観光スポットの紹介以外に、何を食べたか、どんなメニューがあるのかまでアップする。そのため、それを見た人たちは、同じところに行き同じものを注文する。そういえば、私たちが海外に行くとき一番不安なのが食べ物。その国のオリジナルフードを食べたいけれど、何が美味しいかさっぱりわからない。で、ブログで紹介され、「これ絶対おすすめ!」の文字と写真を見るとそう絶対食べないと、と意気盛んになるのだ。

韓国人ブログで紹介されていたのが難波橋南詰めの「モトコーヒー」。「テラス席でコーヒーを飲みながらゆったりと土佐堀川を見るのは最高!」だって。実は私も飲んだことがないのに。なんか、悔しい。台湾人ブログでは、「中之島倶楽部のオムライスが美味しい!」と卵とソースが交わる瞬間の写真が何枚もアップされており、大阪人の私でも「わぁー美味しそう」って思ってしまったくらい。そして、パティスリーの「GOKAN五感」。リーズナブルな値段で、地元食材を使う美味しいスイーツは最高!これもたくさんのケーキの写真が掲載されており、食べたくってしまう。このように外国人は、今後もSNSをフル活用して日本の旅を満喫しようとするだろう。

日本人クリエイターの感性を持ち帰りたい



[graf]のオリジナルプロダクト

2年前にアメリカの雑誌“KINFOLK”のWeb版で取り上げられ、今でも「それを見た!」というお客さんがアジアや欧米から、国籍問わずわざわざ中之島めがけて来訪。「日本のものづくりに感動される方がたくさんいます」と、ショップ担当の湯浅啓子さんも嬉しそう。建築やデザインを勉強中の学生が来店することも日常茶飯事で、「ノルウェー人の女の子が働いてみたいと、一人でやってきてくれたときはびっくりしました」。そんな拠点が中之島にあることが誇らしい。

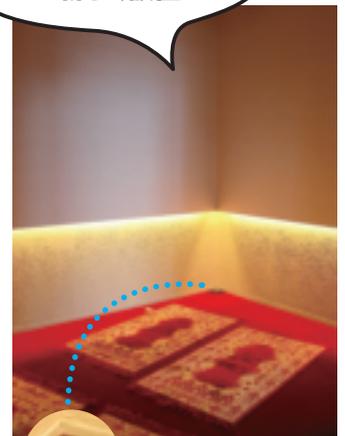
リンゴとレンコンの正体は文鎮と栓抜き、隣は太陽電池を活用した「スフェラスティック」。前者は6,480円〜、後者は10,800円。[graf]がセレクトした「1616/arita japan」という有田焼の器のシリーズも好評だ。
☎06-6459-2100 11:00AM~7:00PM 月曜休



「居心地良さ」を追究し、新しく設置

大阪国際会議場の礼拝室

こちらは観光スポットではないが、常々考えているのは「国際会議などで来館中の外国人に、いかに気持ちよく滞在してもらうか」。注目したのは世界人口の2割以上を占めるイスラム教信者のお客さん。聖地を向いて行う礼拝は1日5回で、その2回分は中之島で過ごしている。実際、方位を尋ねる質問はよくあったそうだ。そこで今後の来館者数増加も見込み、昨年4月に同館11階に礼拝室を設置。神戸モスクなどの施設を視察し、地平線をイメージした間接照明や、礼拝する方向を示すコンパスを置いて工夫した。この3月までの利用件数は26回と、異文化に寄り添った想いはしっかり受け入れられている。



大阪府立中之島図書館

建物を撮影する人はけっこう多いですよ。図書館だとわかっていのかどうかはわかりませんが(笑)。外装をきれいに、イベントも定期開催できるので、グローバルな内容のものもどんどん計画したいです。先日は、ビジネス支援課主催で、企業家向けに外国人観光客誘致に関する講座を開催していました。図書館の歴史や役割も知っていただけるよう、広報ソールの整備から始めて、訪日観光客を対象としてガイドツアーなどにも力を入れていきたいです。(管理事務所・乾さん)

京阪電車

正確なデータはないのですが、外国人の方が増えているという実感は確かにあります。平成3年(1991)以降、旅客数は長らく減少傾向が続いていましたが、平成25年度からは回復傾向に転じ、昨年度の旅客収入は平成21年度以来となる500億円超えを果たしました。主な要因は京都方面(伏見稲荷駅、東福寺以北など)の旅客数の増加などです。京阪電車では多言語対応の取り組みを進めており、守口市駅・祇園四条駅ではコミュニケーションボードやタブレット端末を導入。また、祇園四条駅構内に観光案内所開設をしています。京橋以西の8駅では「Osaka Free Wi-Fi」(P7)を整備したり、Facebookでの情報発信も進めています。(広報部)

御舟かもめ

桜の季節に開催するクルーズは、地域を問わず外国人の方に大人気。考えてみると、桜がこれだけたくさんある国ってないですもんね。「大阪に行くなら桜の季節」という口コミも広まっているように感じますね。一番すごかったのは、今年、「桜の季節に夕陽を眺めながら彼女にプロポーズをしたい」というシンガポール人のお客さん(写真)。ケーキや花束の手配まで頼まれて、けっこうプレッシャーもあったのですが、見事成功して安心しました。「こんな景色が見られたら」と写真まで送って来られたんですよ。そこで調べてカスタマイズするほど、大阪観光も細分化してきているのだと驚きます。(船長・中野さん)

北浜テラス

私のオフィスがある北浜Nピルの「BROOKLYN ROASTING COMPANY」では、観光客というよりは界限で働いている外国人の休憩やテイクアウト利用が多いイメージですね。この店を始め、北浜の店舗が出しているテラス席はやっぱり人気で、水辺活用に注目が集まっているのは北浜水辺協議会としても嬉しいことです。目指すのはニューヨークカーやハリジェンヌのような、世界が羨む島民らしいライフスタイル。来年の川床開きのシーズンに合わせて、現より一段低い新しいテラスの設置企画が進行中です。ゆくゆくは西側の「中之島BANKS」から北浜テラスまでテラスでつなぎ、一連の流れをつくりたいと思っています。(北浜水辺協議会・間宮吉彦さん)

大阪城天守閣

アジア圏からの来館者が圧倒的に多いのですが、特にここ数年はビザ要件が緩和された東南アジアのイスラム圏の方が増えています。年に一度行う来場者アンケートの結果を見ても、年々外国人の割合が増えています。昨年は欧米、特にスペイン人が多かったですね。アジアの方は天守閣など景色を写真に撮るのが好きな様子。一方、欧米人は甲冑など日本文化に興味津々で、展示をじっくりご覧になる方が多いです。これから展示内容を考える上で、参考にしたいと思っています。(広報企画担当・青木さん)

大阪水上バス

同じクルージングでも、国ごとにテンションが上がるポイントが違うのが面白い。アジアの人はとにかく写真が好きなので、大阪城やレトロ建築を背景に、セルフスティックで自撮りをしています。欧米人は歴史好きの傾向があり、水辺ガイドにも興味津々。滞在が長い方も多く、ゆったり1時間のクルーズを楽しんでいます。アジアの方は観光と交通を兼ねたショートクルーズが多いですね。(企画宣伝部・岸田さん)



●図表1 訪日外国人客数の推移
日本政府観光局「訪日外客数の動向」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」を元に筆者作成

	2015年(万人)	2014年比(万人)	増加率(倍)
全国	6,637	4,006	1.5
1位 東京都	1,778	949	1.1
2位 大阪府	934	628	2.1
3位 北海道	548	347	1.7
4位 京都府	481	251	1.1
5位 沖縄県	392	314	4.0

●図表2 外国人延べ宿泊者数
観光庁「宿泊旅行統計調査」を元に筆者作成

最近は大阪でも、外国人観光客の姿は当たり前になってきていて、「増えたなあ」という言葉すら出なくなりました。円安ということもあり、日本を訪れる外国人は増えに増え、2015年は約2000万人と、東日本大震災直後と比べると短期間で3倍にもなっています。日本政府も2020年のオリンピックイヤーには訪日外国人4000万人を目標に掲げ、さらなる観光客の呼び込み力を入れています。おそらく、2040年頃までは順調に観光客は増え続けるでしょう。

I「増えた」って、よのくらゐ?

過去の実績を見ますと、日本を訪れる外国人のうち、25%程度の方が大阪を訪問していましたが、2015年はその割合が36%に増え、実に700万人以上が大阪を訪れています。今から10年ほど前は2000万人以下でしたので、この数字がどのくらい多いかわかると思います。特に大阪は沖繩と並んで外国人客数が伸びている地域ですが、これを支えているのは、中国人と言われており、彼らの訪問率は実に50%を超えています。少なくとも日本にやってくる中国人の2人1人は大阪を訪れているのです。

齊藤成人 さいとうなるひと 政府系金融機関にて鉄道や空港等運輸業を長く担当。現在は観光関連調査・マーケティングに在籍中。また、阪神エリアの街づくりについて長く企画・研究を行っており、尼崎のフリーマガジン「南部再生」では観光担当特別研究員として「ソクラテスマチツクリ」を連載。

データで見る「中之島インバウンド」。

北新地駅

淀屋橋駅

地下鉄御堂筋線
御堂筋

インバウンドで中之島が変わる!?

外国人観光客についてのアンケート(月刊島民調べ)

オステリアレーブ

リーガロイヤルホテルが近いので、以前から外国人の方は多かったんです。でも、うちのようないタリア料理を好むのは欧米の方で、中国やアジア系の人が増えた最近ではむしろ外国人のお客さんは減っています。以前の常連さんも、ホテルがなかなかとれないみたいです。どんな地域の方が多くかによって、影響を受ける飲食店の業態も違うのでしょうか。(オーナーシェフ・山田さん)

リーガロイヤルホテル

現在は、ホテルがある中之島・福島エリアのMAPを、コンシェルジュが英語・韓国語・中国語で作成し、お配りしています。さらにこの5月より、電子版「ニューヨーク・タイムズ」がお手持ちのタブレットで閲覧できるように。また、大阪のホテルでは初めてPepperを導入し、ロビーにてホテル内レストランやバーのご案内を英語で行っています。外国人の方向けに、多言語での対応や新システムを考えているところです。(販売促進チーム・近藤さん)

Osaka Free Wi-Fi

2014年1月に、府内のいろいろな観光施設や公共交通機関などで利用できる無線LANサービスを始めました。前年には250万人以上もの外国人観光客が大阪に訪れていて、もっとネット環境を整えてほしいというリクエストが多かったためです。当初44ヶ所からスタートした対象施設は、現在2000ヶ所に。これからも大阪における観光客は増える見込みなので、さらなる拡大を予定しています。中之島駅を始めとする京阪電車中之島線や本線でも設置しているので、島民の皆さんもぜひ活用してください。(大阪観光局・吉川さん)

ジュンク堂書店大阪本店

アジア系の男女4~5人のグループのお客様が、人気のコミックばかりダンボール4箱分も買っていかれたことがありました。飛行機の重量制限ギリギリまで詰め込んで、店の入っているビルの地下にあるデリバリーサービスで重量を測ってもらったりして大変だったのを覚えています。(店長・小笠原さん)

大阪市立科学館

確実に外国人の方は増えていると感じます。英語・韓国語・中国語の3種類のパンフレットを用意していますが、英語は2倍、中国語は1.3倍ほど配付数が増えました。アジア圏からのお客様が団体でお越しになることもあり、1日の来館者数は多い時で100名を超えることも。(企画広報グループ・竹浦さん)

三井ガーデンホテル大阪プレミア

オープン時は2割程度だった外国人のお客様が、最近では半分を占めています。当ホテルでは、朝食は[博多廊]での和食がメインのbuffetだったのですが、外国人の方が増えたことで、この4月からはハムやチーズなどの冷製オードブルや、タイ風カレーといった洋食メニューを入れてリニューアルしました。(支配人・西原さん)



II なぜこんなに増えたの？

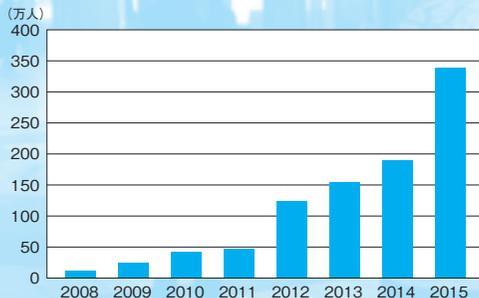
そもそもなんでこんなに外国人観光客が増えたのでしょうか。一つは円安です。長引くデフレに円安が加わり、日本旅行は外国人にとってもものすごくお得感があるのです。どこかの知事がホテル代で問題になりましたが、実は日本のホテルやレストランは世界標準と比べるとものすごく安いのです。ロンドンやパリといった観光地と比べると、東京や大阪のホテル料金はまだまだリーズナブルです。

ちなみに、マクドナルドの商品価格で物価を比較する「ビッグマック指数」という数字がありますが、それによると日本の物価はタイと同じ水準です。世界から見れば、日本は「リーズナブル」な旅行先なのです。その中でも「うまい」「安い」でおなじみの大阪の人気が出るのも納得です。

円安に加えて、大きいのはLCC(ローコストキャリア)の普及です。飛行機は高いというイメージを持っていませんか？ ローコストキャリアとは、座席は狭いですし、機内でサービスもありませんが、その代わりに安い運賃を席を提供している飛行機会社のことです。

例えば、関空・台北などは片道1万円を切るチケットが売られています。いわば飛行機のアウトレットです。関西空港は、日本ナンバーワンのLCC、ピーチアビエーションが拠点を置いているほか、アジア各国からの就航も相次いでいます。LCCは座席が狭い料金も安いですが、航続距離は短い方が好ましく、東京

よりも1時間アジアに近いぶん、多くのLCCが関西空港に就航するわけです。その関係でアジア各国からLCCを使って多くの人々が関空にやってきました。関西空港の出入国者数は2015年で約1000万人となり、特に中国・韓国からの旅行者などは成田空港を上回っています。



●図表3 関西空港におけるLCC国際線旅客便数の推移
新関西国際空港株式会社「関西国際空港の国際定期便運航計画について」を元に筆者作成(※各年冬ダイヤ時点)



大阪観光局に
聞きました

「インバウンド」の 視線の先は。

専務理事を務める野口和義さんが挙げたのは、平成13年から販売している「大阪周遊バス」。30以上の観光施設の入場と、市内の鉄道やバスの乗り放題がセットになったチケットだ。当初は年間2万枚に満たない売上だったが、平成25年頃にインバウンドの波が訪れて30万枚に。昨年、平成27年度は91万枚を記録。その8割以上が外国人観光客だ。

「販売当初からあった道頓堀のクルーズが、昨年爆発的にヒットしました。水上から街を撮影した写真がSNSで広まったようで、すぐに席が埋まってしまい、せっかく並んでも乗船できない事態に。そこで大阪水上バスが急遽、中之島のナイトクルーズを新設したところ、臨時便が出るほど大好評で。」

ミナミと中之島、エリアを分けたことで、課題だったバスで回れる施設の偏りも緩和することができた。また、昨年新たに道頓堀のジャズクルーズとベイエリアのクルーズも加わり、エリアごとに魅力が異なる「水都大阪」らしいアピールが実現。いまりクエストが多いのは、夜間の観光だそう。

また、大阪観光サポーター「Osaka Bob FAMILY」の活躍も一役買っている。大阪観光局の公式キャラクターで外

大阪観光サポーター
「Osaka
Bob FAMILY」



国人留学生という設定の少年Bobを中心に、国籍豊かな友人たちが公式HPやInstagramを通して、大阪の魅力を発信。Bob誕生に立ち会ったWeb担当の吉川由美さんは「外国人目線のフレンドリーなアピールが、海外からの人気の理由だと思います」。また、「大阪観光局のHPを見てみると、たとえばレトロ建築の紹介は香港からのアクセスが多い。こういった分析から、海外が注目している大阪がわかりますね」とも。

「とはいえ外国人が惹かれる大阪は、私たちが好きな大阪の延長線上にあるんです」と野口さん。それを実感したのは、「北浜テラス」(P6)の人氣ぶりだ。大阪市中央公会堂などのレトロ建築をバックに朝から晩まで過ごすことができる、中之島の魅力をうまく活かした水辺のテラス。街を楽しむセンスは、世界共通だったようだ。「特別に外国人向けをつくるのではなく、街の動きに合わせてアピールしていくのが、これから大事になっていくと考えています」

Ⅲ 今後の見通しは？

これだけ大阪に観光客が増えますと、大阪市内はホテルが足りなくて、尼崎や大津のホテルに泊まる、という話もよく聞きます。買い物においては中国人観光客が大活躍していて、一時は炊飯器とウオッシュレットがものすごい人気となり、大量の電化製品の段ボールをかかえた旅行者をみなさんも目にすることがあるでしょう。なにしろ、日本製は信頼があるからです。心齋橋あたりを高級ブランド店の袋をいくつも掲げ歩いている人も見かけます。

いわゆる中国人の「爆買い」という現象ですが、これは日本人には懐かしいものです。1980年代、日本人はこぞってヨーロッパに出かけ、ブランドもののバッグを行列して買っていました。それ

Ⅳ 中之島のポテンシャル

外国人旅行者の関心は、買い物から食や街並みというソフトへと移ってきているようです。今は梅田・心齋橋の百貨店やブランドショップを好んでいる外国人観光客も、いずれは中之島に残るレトロビルのカフェ、そこから見える川の景色、おいしい食事などに関心が向いてくるはず。

家電を売ることに比べて、食事は単価がだいぶ下がりますが、これは悪いことではありません。飲食店はダイレクトに地域にお金がおちるので、地域への経済波及効果が大きいです。としますと、「爆買い」が落ち着くと思われる2020

と同じ現象ですね。そうしますと、どうなるか自明で、いずれこの現象は落ち着いてくるでしょう。日本人も1980年代後半からハワイやパリなどに買い物に出かけていきましたが、1990年代になるとこうした動きは10年ほどで買い物ブームは下火になりました。

中国人向けの観光ビザは、個人観光については2009年に解禁されましたので、同じようにちょうど10年くらいたつ2020年前後には爆買いは落ち着いてしまう可能性があります。現に東京のブランド店では、すでに中国人の買い物単価は落ちてきているという話も聞こえてきます。とすれば、今のようには彼らの消費だけに頼っていれば、いずれ「外貨」を稼ぐことは難しくなるでしょう。

年頃までには、生活体験観光の受け皿となり得るよう、中之島の文化、歴史を残しておくということが大切になりますね。きちんと街の文化さえ残っていて、現地の人、つまり日本に住む我々と同じ生活文化体験を観光できるのであれば、中之島は外国人観光客に人気が出るはず。なんといってもホテルが建ち並び、梅田と心齋橋のちょうど中間点で、それでいて日本トップクラスの観光地である京都まで、京阪電車に乗れば1本。交通面ではものすこいわかりやすさです。さらには夜になれば北新地も近く、中之島はとてもポテンシャルが高いのです。

笑う落語の大阪

第二十八回 高島孝次

たかしまこうじ 大阪大学招聘教授、大阪天満宮文化研究所研究員、NPO上方落語支援の会理事など。

今回は、市内の神社に、上方落語の「碑」を巡ります。

大阪天満宮

まずは、大阪天満宮の北門を出たところの天満天神繁昌亭から。その前に「天満天神繁昌亭」の碑が建つ。2006年9月、同宮から土地の提供をうけて繁昌亭ができたことは周知だろう。受験の神様の地で、落語家がすべるのも何かの御縁か。



碑文には、上方落語が江戸中期の米澤彦八の「辻はなし」を出発点とすることや、1800年ころに桂文治が坐摩神社

で常打ちの寄席を開いたことなどを記している。

彦八の芸は「仕方物真似」と呼ばれる身振りを交えた大道芸だったが、その後は話芸を主にした大道芸に発展していく。それでも現在のような寄席が生れるのは、江戸後期の初代桂文治を俵たねばならなかった。

生國魂神社

天神さんを出て、地下鉄谷町線南

森町から谷町九丁目へ向かうと彦八が活躍した生國魂神社がある。谷九駅からファッションホテル街の中を5分も歩けば境内だ。市内最古の由緒を伝える神社の門前



に、超当世風のビルが建ち並ぶのも何かの御縁か。その境内には「上方落語発祥の地米澤彦八の碑」が建つ。六代目笑福亭松鶴の五年忌を機に建碑されたものだ（1990年9月建立）。

上方落語の碑巡りはいかがか。

坐摩神社

高津さんから、もう一度、谷九に戻って千日前線で難波へ、御堂筋線に乗り換え本町で降りれば、徒歩3分で坐摩神社だ。ここで桂文治が寄席を開いていた。その様子を西沢一鳳『皇都午睡』は次のように記している。



松田弥七、辻講釈の如く市中の軒にて高き台の上に乗る、前に台を

置いて、拍子木を鳴らして聴聞の頤をはづさせ、桂文治は別に咄小屋を建て、日々新奇を咄出して一派を立てたり。

すなわち、松田弥七が「高き台」に座り「前に台」を置き、「拍子木」を打つという現代の落語の様式を整えたのだ。「頤をはづさせ」は顎をはずすほど笑わせる意。弥七の弟子の文治は、それを受けて同社境内に、常打ちの「咄小屋（寄席小屋）」を開いたことから、2011年10月に文治を顕彰する「上方落語寄席発祥の地」碑が建てられた。

この坐摩さんで碑巡りを終えて帰宅したいが、本町駅に戻れば船場セントービル地下1階の「船場女将小路」と「船場茶屋小路」に直結している。その一軒の居酒屋に立ち寄るのも何かも御縁に違いない。

お断り

天満天神繁昌亭「天神寄席」の本誌のご案内は、先月6月を持って終えることになりました。月刊島民では、近々に趣向を替え場所も変えた落語会のご案内を考えております。お楽しみに。なお、毎月25日の天神寄席は今後も続きます。こちらもお断り。



小説家が
語り合う「謎」

2016年8月講座

◎今月の授業

「大阪ミステリー夜話」

対談／有栖川有栖(作家)
久坂部羊(作家・医師)

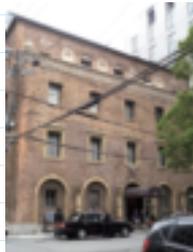
ミステリー

新本格ミステリーの旗手と現役医師作家。
異なる「ミステリー」を描く2人が明かす、
書くこと、デビュー前、ドラマ裏話…。

作家・有栖川有栖さんの新刊『鍵の掛かった男』(幻冬舎)は、全編を通して中之島が舞台だ。有栖川さんはテレビドラマにもなった「火村英生シリーズ」の登場人物の住まいを夕陽丘にするなど、大阪が登場する作品をたくさん書いている。他に天王寺七坂を舞台にした短編集『幻坂』(角川文庫)など、有栖川さんにとって大阪は常に舞台になっている。

医療をテーマに多くの話題作を発表する久坂部羊さんも、大阪や神戸を舞台にした作品が多い。特に、出世作とも言うべき『破裂』(幻冬舎文庫)は自らの母校でもある大阪大学医学部がモデルだと思われ、「大阪にはむき出しの本音やギラギラした感じがあって、人間ドラマになりやすい」と語っている。

デビュー以来、大阪に住んで作品を書き続ける2人だが、実は不思議な縁で結ばれていた。今回はその2人がミステリーの舞台としての大阪や、街や人が放つドラマ性について語り合う。また、作家ならではの創作にまつわるエピソードや読書歴、デビュー前の秘話、さらにテレビドラマ原作者としての裏話も。人気作家同士が語り合う貴重な機会をお見逃しなく。



大正13年竣工の名建築が、
重厚な雰囲気演出!

今回の会場は、関西で最も古い紳士社交倶楽部である大阪倶楽部。大正13年(1924)に竣工した名建築が放つ重厚かつ壮麗な雰囲気が、対談に彩りを添える。



写真／浜田智則

募集要項	「大阪ミステリー夜話」	お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。
	日時／2016年8月18日(木)	〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
	7:00PM～8:30PM頃(開場6:30PM～)	「ナカノシマ大学8月講座」受付係 FAX.06-4799-1341
	会場／大阪倶楽部	※先着順で受付後、7月20日前後より受講票をお送りします。
	受講料／2,000円	※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。
定員／200名	※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。	
主催／ナカノシマ大学事務局	※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。	
協力／大阪倶楽部		

ナカノシマ大学の最新情報は
<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

もうすぐ天神祭。「天神さん」と言えば、大阪天満宮の祭神である菅原道真のことだが、その天神さん

にまつわるこんな本が出版された。

本誌の連載(P9)でもおなじみ、高島幸次先生による『奇想天外だから史実―天神伝承を読み解く―』(大阪大学出版会)は、菅原道真にまつわる

さまざまな「天神伝承」について、その成立から広まってきた過程を丁寧に追う。今や「学問の神さま」として全国的に有名だが、菅原道真の伝承には実に多様

天神さんにまつわる伝承には深い意味があった。

なバリエーションがある。有名なのは、大阪天満宮の創始として伝わる一夜にして7本の松が生えて光り輝いたという「七本松伝承」や、太宰府に左遷される道真が自邸の梅に和歌を詠むと、その梅が太宰府へ飛んでいったという「飛梅伝承」か。

あるいは、太宰府へ向かう道中に道明寺の叔母を訪ねた際、夜明けに鶏が鳴いたために出発しなければならなくなり、以来、道明寺周辺では鶏を忌避して飼わなくなったという「道明寺鶏

鳴説話」などもある。

これらは言ってみれば、奇想天外な作り話である。しかし、それを読み解けば「深遠なメッセージが浮かび上がってくる」と高島先生は書く。「七本松伝承」は、なぜ松なのか? なぜ7本なのか? はたまた、なぜ道真と梅や鶏は深く結びつけられるのか? そこにはちゃんと意味がある。まさに「奇想天外だから史実」なのである。

ところで、なぜ菅原道真に関わる言い伝えはこんなにたくさんある

何か新しいものを流行らせようと思えば、それまでとは違うイメージを持たせたり、別のものと結びつけてアピールする必要があり、そこには広めようとした人たちの意図が加わる(これは今も同じだろう)。天神伝承が多彩なのは、現在のように広く信仰されていることの結果でもあるわけだ。

それにしても、伝承や神話の持つメッセージの豊かなこと。神々に託された、昔の人たちの思いを読み解く楽しさを味わえる。



大阪天満宮表門の「十二支方位盤」(上写真)に彫られた鳳凰にも奥深いメッセージが。

るのだろうか。それにもやっぱり理由がある。

「天神信仰が成立したのは平安中期のことでした。日本神話の成立から大きく遅れて、新参の「カミ」として登場した天神が、先行する八百万の神々を凌駕して伝播・浸透するには、すぐれた魅力的な天神伝承が必要でした。(略)日本神話が国の成り立ちを(物語る)のに対して、天神伝承はその成立や由来や正当性を(主張する)ものだったのです」(はじめに「より」)



『奇想天外だから史実―天神伝承を読み解く―』(高島幸次 / 1,800円+税 / 大阪大学出版会)

大阪天満宮や天神祭の研究者、高島幸次先生のライフワークである「天神伝承」の研究成果をまとめた1冊。全国各地に流布する伝承や説話を歴史学のアプローチで掘り下げ、そこに秘められた史実を明らかにしようと試みる。学術的な内容だが、努めて平易な言葉遣いなのがありがたい。書店にて発売中。

ちよと、隣のビルまで。

取材・文／大迫 力(本紙)

第27回

まるいち [丸一商店]@フジカワビル

老舗楽器商が、新たな場所にかける思い。

大阪に数多くの建築を遺してきた村野藤吾。公共建築から喫茶店まで手がける多作の建築家で、近年再評価の声が高まっている。

堺筋沿いに昭和28年(1953)に建てられたフジカワビルも村野建築の一つ。1階奥の華麗な螺旋階段が印象に残っている人も多いだろう。元はビルのオーナーが営む画廊が入っていたが、このほど新たにバトンが渡されることとなった。高麗橋の老舗楽器商「丸一商店」が移ってきたのだ。

昭和2年(1927)に楽器の輸入を始めた丸一商店は、日本に初めて名器「ストラディバリウス」を紹介するなど、音楽好きには知られた存在。一時期は大阪フィルの事務所も置かれ、指揮者・朝比奈隆もよく出入りしたそうだが、あくまで「会社」であり、「とても気軽に入れる雰囲気ではなかった」(社長・碓田光一さん)。

新社屋は大通りに面し、1階部分はガラス張り。歩いていると展示されたバイオリンが目に入り、ビルの雰囲気も相まって、楽器に縁はなくてもふと入ってみたいくなる。今までとは打って変わって、街や人との距離がぐっと近づいた。実に思い切った移転だ。

「このビルは絵画や建築などの芸術を守ってきた場所です。そこに移ることで、私たちが守ってきた音楽という芸術を、これからも大切にしていくという心意気を示す必要があると思ったんです」

そう話すのは部長の鈴木麻衣子さん。今の時代に決して安いとは言えない楽器を商う中、自分たちの財産は積み重ねてきた歴史があると再認識したのだという。「昔は丸一しかやっていなかったことも、当たり前になってきている。その中で選んでもらうには、長い時間をかけて培ってきた信頼を守って、活かしていかなければ」。

5月1日に移転して早速、鈴木さんが「丸一らしい」と話す出来事があった。ご主人の介護中の女性が、看板を見て「40年前、主人が楽器を買ったの」と訪ねてきた。結婚した当時を思い出して嬉しくなったというその女性は、花束を持って再びやってきたそうだ。



1階中央は吹き抜けに。赤絨毯を敷き、これまでにはなかった楽器などの展示スペースを設けた。



新しくレッスン室になった2階の道路側のスペースは元社長室。ここにあった村野デザインのイスやテーブルはギャラリイで使われている。



2階奥の工房。ここで職人と話しながら、好みの音の楽器を選んでいく人もいる。壁の向こうには試奏室が。コンパクトながら、考え抜かれた設計。



5月28日に行われたバイオリンコンサートの様子。移転直後から精力的にイベントを開催している。



丸一商店

弦楽器を中心に、ヨーロッパから輸入した楽器の卸業と小売を行う。輸入楽器の調整や、修理のための工房も併設する。また、コンサートや楽器の体験会を開催し、音楽に親しむ機会を積極的に生み出している。チェロ、バイオリンの教室では、随時生徒を募集している。☎06-6201-0044 10:00AM~7:00PM(ギャラリイ) 月曜休

トウニン月報

2016年7月1日発行

水辺のテラスでBBQ



最近の中之島は、水辺へ行けば何かしら行われていることが増えた。この6月から大阪市役所前の土佐堀川沿いには200席以上のテラスとイスが並べられ、夜はBBQのにおいがたよい、かなり羨ましい光景が広がっている。3年目を迎える期間限定の「中之島オープンテラス」では10月いっぱいまで、毎週末のDJイベント、のど自慢やフラダンスショーなどイベント盛りだくさんで開催中だ。今年の目玉は、巨大な肉の塊やパイナップルを串に刺して豪快に焼き上げるブラジル料理「シュラスコ」。芸人のたけだバークューさんが考案し、トマトや玉ねぎたっぷりマリネ風ソースを添えれば女性もべろりといただける。BBQのほかにも約30種のアラカルトメニューもあり、一杯からでも気軽に楽しめる。また初の試みとして、あの「御

舟かもめ」とのコラボ企画も進行中とのこと。中之島の水辺活用はどんどん進化している。(江口由夏・本誌)



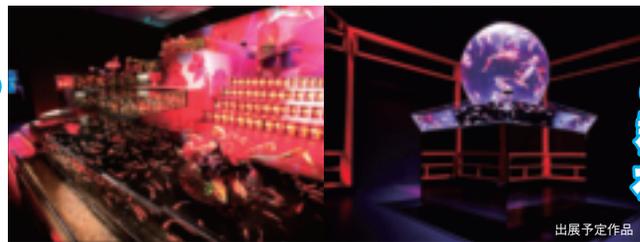
中之島オープンテラス
 期間／～10月30日(日)まで
 ※無休・雨天決行
 時間／12:00AM～11:00PM
 メニュー／「たけだBBQ シュラスコプラン」
 5,000円(飲み放題付き)
 スタンダードBBQ 4,000円(飲み放題付き)
 アラカルトメニュー300円～、生ビール500円など
 予約・問い合わせ／☎080-3501-1296
<http://www.nakanoshima-terrace.com/>

中之島の開発・安全確保に関する第1回中之島地域部会が開催

5月30日、大阪市役所において、大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会の第1回中之島地域部会が行われた。この部会は、政令によって都市再生の拠点として整備推進が指定された地域において行われるもの。中之島を含む

熱帯魚や水草などを水槽に配置し、思い思いの世界を演出する「アクアリウム」。特に、デザイン性の高い水槽や照明、映像や音楽などを組み合わせた「アートアクアリウム」が近年話題になっている。これまで全国の主要都市会場で展示されてきたが、誕生10周年にあたる今年は最大規模で開催。しかも、堂島リバーフォラムという中之島エリアでの開催は初となる。会場ではおよそ8千匹の金魚が艶やかに泳ぐ。最大規模の会場だけに、ひとつひとつの作品が圧倒的な存在感。見どころは、川に見立てた複数本の水槽をアングルを変えて

堂島リバーフォーラムに舞う 涼し気な金魚の群れ



出展予定作品

アートアクアリウム展
 ～大阪・金魚の艶～
 & ナイトアクアリウム
 期間／7月6日(水)～9月5日(月)
 時間／日曜～金曜11:00AM～9:00PM(最終入場は8:30PM)
 ※土曜・7月17日(日)・8月11日(木・祝)～14日(日)は～11:00PM(最終入場10:30PM)
 入場料／1,000円
 問い合わせ／☎050-5542-8600

鑑賞できる「華魚繚乱」、まるで空中を錦鯉たちが舞っているかのような「アースアクアリウム・シャボニズム」などが、百聞は一見に如かず。ただ金魚や錦鯉が泳ぐだけではない空間は、その場に流れる音楽や照明などが合わさって、初めて一つの作品となる。生きている美術館としても、この夏だけのクルルスポットとしてもどうぞ。(江口由夏・本誌)



大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域は、国際競争力の強化を図る上で特に有効な「特

定都市再生緊急整備地域」に指定されている。第1回の会合には、大阪府や市、国の関係機関、中之島の民間企業が参加し、中之島エリアの整備計画(素案)や都市再生安全確保計画(素案)について意見が交わされ、引き続き官民一体となって整備を進めていくことを確認した。災害など緊急時の安全確保については、近年、都市部に

おいての大きなテーマになっている。作成された都市再生安全確保計画(素案)には、さまざまな取り組みを行うことやルールを制定することが盛り込まれている。今後は行政や各事業者に加え、まちづくり活動を推進してきた地域団体「中之島まちみらい協議会」や一般市民も一緒になって、都市の防災性・安全性に関する活動を進めていく必要がある。(大迫力・本誌)



「世界の視点を中之島に持ち帰って、 『記憶に残る料理』を披露します」

「ボキューズ・ドール国際料理コンクール」をご存じでしょうか？隔年で行われているフランス料理の世界大会で、私たち料理人にとってはワールドカップかオリンピックかというくらい権威があります。実際、スポーツの試合みたいになぎやかで、タイマーの音も聞こえないくらい（笑）。

今回、チーム・ジャパンがアジア大会で優勝しました。来年の1月にフランスのリヨンで、各地域の代表が合流する本大会があり、今はその準備期間です。優勝常連国は、国家プロジェクトになるくらい予算をかけていて、審査員に美味しく食べて

もらうために設備の充実も惜しまず、料理人へのサポートもばっちりです。初出場した2007年に世界の本気を目の当たりにして、意識が変わりましたね。

10年越しに、優勝が叶うかもしれない。私の心境も大きく変わりました。昔は若さゆえに、自分が有名になりたい、という気持ちが強かったのですが、今は後輩たちに世界を見せに連れて行ってあげた

いし、結果を出すことで日本の料理レベルや地方の食材をアピールしたい。10年前に日本のアイデンティティとされた豆腐や味噌は、今や世界中で受け入れられて、大会でも使われていますからね。フ



材がたくさん使われていること。この小さな島国にこれだけ発信できるものがあるんだと、'Home（おごろき）」を盛り込んだ料理を本大会でも披露したい。国内や世界を飛び回ることが増えるだろうと思いますが、常に私の拠点は中之島のこの店です。2012年のオープン当時は、関西の食材を知り尽くしていなかった部分もありました。4年経ってネッ

「ボキューズ・ドール国際料理コンクール」に
日本代表として出場する
[ラ・フェット ひらまつ]
総料理長
長谷川幸太郎さん

ランスから「これがフランス料理ですよ」と持ってきたものを、「これもフランス料理なんだ」と、もつと日本からアウトパウンドしなくてはいけない。

私は、お腹を満たすだけでなく、思い出や記憶に残るものが最高級フランス料理だと思っています。人との会話や景色、音や見た目、五感をフル活用して味わってもらえるもの。夢は、そこに日本の食



トワークを深めて土台を固めることができ、これからが本場の勝負となるでしょう。世界から中之島に戻ってきて、この素晴らしい眺望と共に記憶に残る料理をつくりたいですね。みなさまのお越しをお待ちしています。



祝祭へようこそ。



<http://festivalplaza.jp/>
提供/株式会社 朝日ビルディング

Information from ラ・フェット ひらまつ [中之島フェスティバルタワー37階]

「南フランスの星つきレストランでも、季節が良いとテラスで食事する文化があるんです」と長谷川シェフ。フランス式にアレンジした「天空のガーデンテラス」が昨年好評で、今年は規模も拡大して9月16日（金）までの開催。リクエストが多かった魚介メニューも味わえる。通常営業はランチ3,400円～、ディナー9,000円～。☎06-6233-1139 11:30AM～1:30PM(LO) 5:30PM～8:30PM(LO) 無休
<https://www.hiramatsurestaurant.jp/hiramatsu-lafete/>



大「島民」MAP 橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/テリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店]旭屋書店 梅田地下街店/紀伊國屋書店 梅田本店/グラフィック大阪店/本町店/ジュンク堂書店 大阪本店/梅田ヒルトンプラザ店/天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/文教堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など]アイスポット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪倶楽部/大阪工業技術専門学校/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立科学館/大阪市立総合生涯学習センター/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪梅田サテライト/川の駅はちけんや/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪シティキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住い情報センター/少彦名神社/中央電気倶楽部/適塾/ホテルNCB/メビック扇町/立命館大阪オフィス/館谷大学大阪梅田キャンパス [店舗・医院など]アンドール 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前製料理 志津町/天満橋鍼灸整骨院/MJB珈琲店/エルマーズグリーン コーヒーカウンター/大西洋洋行/OOO(オー)/カセット/喫茶カウンター/喫茶SAWA/グラスアート中之島/黒門さかえ/コモンカフェ/The Court/サトウ花店 中之島本店/ザ・メロディ/シアルベストコーヒー/新聞電ビル店/じろう亭/Girond's JR/心齋橋山田兄弟歯科/住友病院/セブイレブン大阪証券取引所店/タビスタイル/たまがわ鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャノ/パストラリー/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/FOLK/フレイムハウス/ミニジロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店]旭屋書店 なんばCITY店/紀伊國屋書店 京橋店/ジュンク堂書店 難波店/福島書店/柳々堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など]大阪科学技術館/大阪市社会福祉研修情報センター/大阪市立中央図書館/大阪府立中之島文化芸術創造センター/川口基督教會 [店舗・医院など]あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパル/大阪シティ信用金庫 江戸堀支店/御伽かもめ/カルチャーカフェ上方/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワナ/バルビコ/ホステル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学堂堂/Books 呼文堂/水嶋書房 千早店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/川のほとりの美術館/納屋工房/タバーン・シンプソン/百練/奈良県立図書館情報館
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店/恵文社 一乗寺店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/川のほとりの美術館/納屋工房/タバーン・シンプソン/百練/奈良県立図書館情報館
- 東京 往来堂書店(千駄木)/BOOKSルー(吉祥寺)/B&B(下北沢)/隣町珈琲(荏原中延)/ONLY FREE PAPER(渋谷)

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 中之島ミステリー研究会

作家・有栖川有栖さんの『鍵の掛かった男』は中之島を舞台に展開する物語。実は意外と多い、中之島周辺が登場するミステリー作品を紐解いてみよう。

●『月刊島民』vol.97は2016年8月1日発行です！

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)
編集・発行/月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)
松本 創 江口由夏 大迫 力(編集集団140B)
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341
制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)
デザイン/山崎慎太郎
表紙イラスト/奈路道程
印刷/佐川印刷株式会社

京阪電車で行く、コンチキチンが響く京の夏。

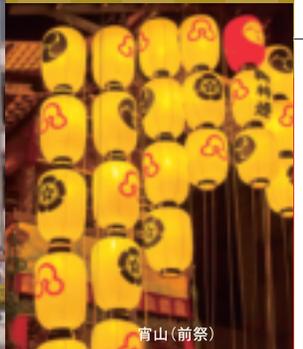
祇園祭

KYOTO GION MATSURI

宵山の提灯、山鉾巡行、辻廻し。しっとり、優雅に、大歓声。今年も無病息災おたの申します。



山鉾巡行(後祭)



宵山(前祭)



前祭 (さきまつり)

後祭 (あとまつり)

7/10(日)~14(木)

鉾建・山建

7/18(祝・月)~21(木)

7/14(木)~16(土)

宵山

7/21(木)~23(土)

7/17(日)【四条烏丸9時出発】

山鉾巡行

7/24(日)【烏丸御池9時30分出発】

●祇園四条駅、三条駅下車

※詳しくはK PRESS 7月号またはホームページ「おけいはん、ねっと」をご覧ください。

7/15(金)・16(土)は

京都方面行(上り)、大阪方面行(下り)電車増発!

ダイヤについてのお問い合わせ: 京阪電車お客さまセンター
☎06-6945-4560 9時~19時 ※土休日は17時まで

京阪のおけいはん。

出町柳けい子 衣装提供: 京阪百貨店 守口店 5階呉服売場 おお又

www.okeihan.net